



SAS/ACCESS[®] 4.4 Interface to R/3[®] 設定ガイド



著作権情報

このマニュアルの正確な書籍情報は、以下のとおりです。

Post-Installation Instructions for SAS/ACCESS® 4.4 Interface to R/3®

Copyright® 2013, SAS Institute Inc., Cary, NC, USA.

本書は、発行元である SAS Institute, Inc.の事前の書面による承諾なく、この出版物の全部あるいは一部を、電子データ、印刷、コピー、その他のいかなる形態または方法によって、複製、転送、または検索システムに保存することは禁止されています。これらの説明書は著作権により保護されています。

著作権保護を受ける本書の使用の範囲は制限されています。許される使用の範囲とは、使用者のシステムに保存して端末に表示すること、本書が提供された目的である、SAS プログラミングおよびライセンスプログラムのインストール・サポートの責任者が使用するために、必要な部数だけコピーすること、および特定のインストール要件を満たすように内容を修正することを指します。本書の全部あるいは一部を印刷する場合、またはディスプレイ媒体に表示する場合は、SAS Institute の著作権表示を明記する必要があります。上記の条件以外で本書を複製または配布することは一切禁止されています。

アメリカ合衆国政府の制約された権限についての通知

アメリカ合衆国政府による、本ソフトウェアおよび関連するドキュメントの使用、複製、公開は、「FAR52.227-19 Commercial Computer Software-Restricted Rights」（1987年6月）に定められた制限の対象となります。

SAS Institute Inc., SAS Campus Drive, Cary, North Carolina 27513.

SAS®および SAS Institute のプロダクト名またはサービス名は、米国およびその他の国における SAS Institute Inc.の登録商標または商標です。

®は米国で登録されていることを示します。

その他、記載されている会社名および製品名は各社の登録商標または商標です。

目次

第1章 導入	1
このドキュメントについて.....	1
このドキュメントの使い方.....	1
SAS/ACCESS Interface to R/3 の設定.....	2
SAS/ACCESS Interface to R/3 のコンポーネント.....	2
SAS/ACCESS 4.2 Interface to R/3、SAS/ACCESS 4.3 Interface to R/3 から移行する際の 検討事項.....	3
新しい SAP のリリースにアップグレードする際の検討事項	4
関連する出版物	4
第2章 事前準備	5
概要	5
システム必要条件	5
オペレーティングシステム.....	5
SAS 9.3	5
SAP システム	6
権限プロファイル	7
第3章 SAS/ACCESS Interface to R/3 のインストール	9
概要	9
インストール後の設定	9
概要.....	9
SAS Server	9
SAS/ACCESS Interface to R/3 コンポーネントのインストール	10
前提条件	10
手順 1： ABAP プログラムとファンクションモジュールのインストール.....	11
手順 2： RFC 接続先の設定	15
手順 3： 接続先グループの/SAS/DESTS テーブルのメンテナンス	16
手順 4： SAP BW/BI 認証のための BAdI Implementation の有効化	17
第4章 z/OS 上の SAS/ACCESS Interface to R/3 のインストール	18
概要	18
インストール後の設定	18
概要.....	18
UNIX System Services 上の RFC サーバー	19
Windows 上の RFC サーバー	19
AIX 上の RFC サーバー	21
SAS/ACCESS Interface to R/3 コンポーネントのインストール	21
第5章 データディクショナリ抽出	25
データディクショナリ抽出.....	25

手順 1 : SAS RFC サーバーの開始	25
手順 2 : SAP システムへのログオン	25
手順 3 : 抽出プログラムの開始	27
手順 4 : SAP システムからのログオフ	27
第 6 章 SAS/ACCESS Interface to R/3 の開始	29
インストールのテスト	29
機能	29
付録 A : SAP トランザクションコードの選択	31
付録 B : エラーメッセージ	33
全てのオペレーティングシステムで起こり得るエラー	33
ゲートウェイサービスが見つかりません	33
ホスト名が見つかりません	33
付録 C : 事前準備のためのチェックリスト	34
セクション A : 一般的な情報	34
セクション B : SAS 環境	34
SAS/ACCESS Interface to R/3 – アプリケーション	34
データディクショナリ抽出	35
別のマシン上の SAS ビュー	35
セクション C : SAP システム環境	36
一般的な情報	36
SAS RFC サーバー	36
SAP システム	36
SAPGUI	37
付録 D : インストールのためのチェックリスト	39
付録 E : ABAP アドオンのインストール	40
用語集	42

第 1 章 導入

このドキュメントについて

このドキュメントは、SAS ソフトウェアのインストールに続いて実行する、SAS 9.3 での SAS/ACCESS Interface to R/3 の設定についてまとめたものです。

このドキュメントの使い方

この章では、SAS/ACCESS Interface to SAP R/3 のアーキテクチャの概要を説明します。

「第 2 章 事前準備」では、システム必要条件とインストール前の必要事項を記載します。インストールを実行する前の必要事項のセットアップ方法に関するヒントなどを確認することができます。SAS Data Surveyor for SAP を使用するために SAS/ACCESS to R/3 をセットアップする場合は、この章に目を通してください。

「第 3 章 SAS/ACCESS Interface to R/3 のインストール」では、SAS/ACCESS Interface to R/3 のインストールについて順を追って説明します。SAS Data Surveyor for SAP を使用するために SAS/ACCESS to R/3 をセットアップする場合も、この章の手順に従ってください。

「第 4 章 z/OS 上の SAS/ACCESS Interface to R/3 のインストール」では、z/OS への SAS/ACCESS Interface to R/3 のインストールと設定の方法を順番に説明します。このセットアップは、RFC サーバーが SAP システムへのアクセスで使用される点で、他のホストの場合と異なります。SAS Data Surveyor for SAP を使用するために z/OS 版の SAS/ACCESS to R/3 をセットアップする場合も、この章の手順に従ってください。

第 5 章と第 6 章は、SAS/ACCESS Interface to R/3 アプリケーションのみに適用します。SAS Data Surveyor for SAP は、メタデータの抽出には SAS 管理コンソールのプラグインを、メタデータのナビゲーションとテーブルとジョブの定義には SAS Data Integration Studio のプラグインを使用します。この手順の詳細はここには記載されていません。サーバー定義とメタデータ抽出の設定については、『Data Administration Guide』を参照してください。

「第 5 章 データディクショナリの抽出」では、SAP からメタデータ情報を抽出する方法について説明します。

「第 6 章 SAS/ACCESS Interface to R/3 の開始」では、ソフトウェアの開始方法およびインストールの確認方法を説明します。

「付録 A SAP トランザクションコードの選択」では、インストールと確認に便利な SAP トランザクションコードのリストを提供します。

「付録 B エラーメッセージ」では、インストール中に起こる可能性のある問題やその症状について説明します。

インストールを実行しやすくするため、2つのチェックリストを提供しています。これらのチェックリストは SAS/ACCESS Interface to R/3 を確実にインストールするための重要なツールです。

- 「付録 C 事前準備のためのチェックリスト」：事前準備のためのチェックリストは、インストールの前に完了している必要があります。事前準備のためのチェックリストの項目が正しく完了するまでは、インストールを実行しないでください。

- 「付録D インストールのためのチェックリスト」：インストールの間にインストールのためのチェックリストを完了する必要があります。インストールを記録し更新などを容易にするものとして、この情報は重要になります。

「付録E ABAP アドオンのインストール」は、SAP システムの ABAP オブジェクトにアドオンをインストールする方法を説明します。

SAS/ACCESS Interface to R/3 の設定

SAS/ACCESS Interface to R/3 には、クライアントとサーバーのコンポーネントがあります。SAS/ACCESS Interface to R/3 のサーバーコンポーネントは、SAS Data Surveyor for SAP でも使用されます。

SAS/ACCESS Interface to R/3 のコンポーネント

SAS/ACCESS Interface to R/3 のコンポーネントには、次のようなものがあります。

- SAS/ACCESS Interface to R/3 – クライアントアプリケーション
- データディクショナリ抽出
- SAS Server - LIBNAMEエンジンおよびCALLRFCプロシジャ
- SAS RFC サーバー (z/OS版SAS/ACCESS Interface to R/3のみ)

SAS Data Surveyor for SAP

SAS Data Surveyor for SAP は、SAS/ACCESS Interface to R/3 のデータアクセスとリモートフックションコールの機能を使用します。SAS Data Surveyor for SAP を使用する前に SAS/ACCESS Interface to R/3 をセットアップする必要があります。第 2 章と第 3 章または、第 4 章の手順に従ってください。SAS Data Surveyor for SAP の追加の設定情報については、『SAS 9.3 Intelligence Platform: Data Administration Guide』を参照してください。

SAS/ACCESS Interface to R/3 – クライアントアプリケーション

アプリケーションは SAP データにアクセスするためにメタデータのナビゲート、選択の保存、SAS ビューの生成を実行するユーザーインターフェイスです。しかし、このユーザーインターフェイスはメンテナンスのためのものに過ぎないため、SAS では代わりに SAS Data Surveyor for SAP を使用することを推奨しています。

データディクショナリ抽出

データディクショナリ抽出は、SAP Data Dictionary からのメタデータのコピーです。メタデータは SAS/ACCESS Interface to R/3 のテーブル、フィールド、データモデル、エンティティタイプに関する情報を提供する SAS データセットに保存されます。例えば、1 つのテーブルが SAS/ACCESS Interface to R/3 で定義された全てのテーブル（通常 20000~50000 の論理テーブル）を記載し、他のテーブルが、それぞれのテーブルのフィールド（通常 400000~800000 のフィールド）を記載します。

データディクショナリ抽出は、通常 SAS/ACCESS Interface to R/3 のユーザーインターフェイスもしくはファイルサーバーと同じマシンにインストールされます。

次のいずれかがマシンにインストールされていれば、別のマシンにデータディクショナリ抽出をインストールすることができます。

- SAS 9.3
- SAS/SHARE もしくは SAS/CONNECT

SAS Server - LIBNAME エンジンおよび CALLRFC プロシジャ

SAS ビューは SAS/ACCESS Interface to R/3 によって生成されます。ビューは、SAS LIBNAME Engine for SAP を使用します。

SAS ビューを特定のマシン上で使用するには、SAS/ACCESS Interface to R/3 をインストールする必要があります。

SAS RFC サーバー (z/OS 版 SAS/ACCESS Interface to R/3 のみ)

以前のリリースでは、SAS/ACCESS Interface to R/3 と SAP システム間の通信を可能にするため、SAS RFC サーバーが必要でした。SAS 9.3 では、SAS/ACCESS Interface to R.3 は、直接 SAP システムと通信するため、SAS RFC サーバーが必要ではなくなりました。

しかし、z/OS 上の LIBNAME エンジンでは、SAS RFC サーバーが必要です。z/OS 版 SAS/ACCESS Interface to R/3 には、z/OS 版、AIX 版、および Windows 版の RFC サーバーが含まれています。

通常、SAS RFC サーバーは次のものと同じマシンにインストールされます。

- SASサーバーまたは、
- SAPシステムアプリケーションサーバー

SAS RFC サーバーは Windows、Windows XP Professional、Windows Server 2003 Family Edition、Windows Server 2003 Itanium Edition、Windows Server 2003 for x64 Systems、AIX および、UNIX System Services (USS) - Open Edition で使用可能です。SAS RFC サーバーは SAS 9.3 がインストールされていないマシンにもインストール可能です。SAS Unicode RFC サーバーをサポートしている Windows オペレーティングシステムのリストは、拡張されています。Windows のサポートしているバージョンについては、インストールセンターにある Windows、Windows x64、64-bit Windows Itanium 用のシステム必要条件のドキュメントを確認してください。

<http://www.sas.com/japan/service/documentation/installcenter>

SAS Unicode RFC サーバーは、SAP Unicode システムにアクセスするために使用されます。

SAP システムアプリケーションサーバー

SAS RFC サーバーは SAP システムアプリケーションサーバーと通信します。SAS/ACCESS Interface to R/3 のインストールには、複数の ABAP オブジェクトが含まれます。ABAP オブジェクトは、SAP システムにデリバリー移送ファイル (delivery transport) をインポートすることにより、インストールされます。

SAS/ACCESS 4.2 Interface to R/3、SAS/ACCESS 4.3 Interface to R/3 から移行する際の検討事項

新しい移送ファイルは、前のバージョンのソフトウェアである SAS/ACCESS 4.2 Interface to R/3 と SAS/ACCESS 4.3 Interface to R/3 の RFC サーバーもサポートしています。新しい移送ファイルがインストールされた SAP システムにアクセスするために、SAS/ACCESS 4.2 Interface to R/3 および SAS/ACCESS 4.3 Interface to R/3 を継続して使用することも可能です。その場合、下記の注意事項があります。

Windows および UNIX 版の SAS/ACCESS Interface to R/3 の場合：

- 新しい移送ファイルをインストールします。

- 複数の接続先 (destination) をセットアップし、第 3 章で説明されているように接続先グループのテーブル/SAS/DESTS の保守をします。
- バリエント (valiant) はもう使用されないので注意が必要です。
- ライブラリ参照名の割り当てに RFC サーバーパラメータを使用していた場合、それらのパラメータを削除する必要があります。SAS Data Surveyor for SAP のユーザーは、この件はメタデータの移行の際に実行されます。

z/OS 版の SAS/ACCESS Interface to R/3 の場合 :

- 新しい移送ファイルをインストールします。
- 新しい接続先 (destination) をセットアップするか、もしくは、以前のリリースと同じ接続先を使用するか検討します。
- 新しいバリエント (valiant) をセットアップするか、もしくは、以前のリリースと同じバリエントを使用するか検討します。

新しい SAP のリリースにアップグレードする際の検討事項

SAP システムがアップグレードされた場合、デリバリ移送ファイルを再びインポートする必要があります。

関連する出版物

『SAS/ACCESS 4.4 Interface to R/3: User's Guide』

『SAS 9.3 Intelligence Platform: Data Administration Guide』

第2章 事前準備

概要

この章では、SAS/ACCESS Interface to R/3 をインストールし実行するための前提条件の概要を説明します。これらの前提条件のうちいくつかは、SAP システム管理者など他のスタッフのサポートを必要とします。

システム必要条件

インストーラはオペレーティングシステムのユーザーID とパスワード、SAP のユーザーID とパスワードを必要とします。複数マシンでのインストールにおいては、ネットワークおよびすべてのマシンへの適切なアクセスが必要です。

オペレーティングシステム

SAS/ACCESS Interface to R/3 - SAS RFC サーバー

SAS RFC サーバー (z/OS 版 SAS/ACCESS Interface to R/3 のみ)

SAS Unicode RFC サーバーをサポートしている Windows オペレーティングシステムのリストは、拡張されています。Windows のサポートしているバージョンについては、インストールセンターにある Windows、Windows x64 Edition、64-bit Windows Itanium 用のシステム必要条件のドキュメントを確認してください。

<http://www.sas.com/japan/service/documentation/installcenter>

SAS Unicode RFC サーバーも AIX および UNIX System Services (USS) - Open Edition 上でサポートされています。

SAS/ACCESS Interface to R/3 - アプリケーション

SAS/ACCESS Interface to R/3 ユーザーインターフェイスに必要なオペレーティングシステムの一覧は、SAS 9.3 のシステム必要条件を参照してください。

SAS 9.3

SAS/ACCESS Interface to R/3 - SAS RFC サーバー

SAS RFC サーバーは、z/OS 版 SAS/ACCESS Interface to R/3 で必要であり、SAS 9.3 がインストールされていないマシンでも実行することができます。

SAS RFC サーバーは、Windows 版および UNIX 版の SAS/ACCESS Interface to R/3 では現在サポートされていません。

SAS/ACCESS Interface to R/3 - アプリケーション

SAS 9.3 が必要です。

必要な SAS プロダクト

Base SAS と SAS/ACCESS Interface to R/3 が必要です。

SAS クライアント/サーバーサポートを使用するには、SAS/CONNECT もしくは SAS/SHARE が必要です。

SAP システム

リリース

- SAP Kernel Release 4.6C もしくはそれ以上

Windows 版および UNIX 版の SAS/ACCESS Interface to R/3 は、64-bit SAP Unicode RFC library, Release 7.10 以上が必要です。これらは、SAP 社から提供されます。現在のバージョン、ダウンロードおよびインストール手順については、SAP Note 413708 を参照してください。

- 64-bit SAP Unicode RFC library, Release 7.10 以上

z/OS 版 SAS/ACCESS Interface to R/3 では、RFC サーバーを Windows、AIX または、z/OS 上の UNIX System Services にインストールすることができます。現在のバージョン、ダウンロードおよびインストール手順については、SAP Note 413708 を参照してください。次のいずれかが必要になります。

- 32-bit RFC library, Release 6.40 (z/OS用)
- 64-bit RFC および (または) Unicode RFC libraries, Release 7.10 (AIX用)
- RFC および (または) Unicode RFC libraries, Release 7.10 (対応する Windows Server用)

SAPGUI

SAS/ACCESS Interface to R/3 のインストール中、SAPGUI が必要になります。

ユーザーID

SAP のユーザーID とパスワードが必要です。ユーザーID は、データにアクセスし、通信メソッドを使うために必要な権限を持っている必要があります。権限のカスタマイズに関する詳細は、「権限プロファイル」を参照してください。

SAS/ACCESS Interface to R/3 をインストールし、実行するには、次の SAP ユーザーID が必要です。

- **RFC ユーザー**：これは、SAS RFC サーバーと SAP システムアプリケーションサーバー間の通信リンクで使われる SAP ユーザーID です。通常、複数の RFC ユーザーID が存在します (1 人に 1 つずつ)。
- **SAP システム管理者**：ABAP プログラムおよびファンクションモジュールのインストール、接続先やバッチ実行のバリエーション (Variant) の設定、SAS/ACCESS Interface to R/3 を使うためのユーザーID の権限設定のために SAP システム管理者の ID が必要です。このユーザーID はインストールの実行時にのみ使用されます。

接続

SAS RFC サーバーと SAP システムアプリケーションサーバーは、通常、TCP/IP 通信を使用します。SAP 社が提供している RFC 資料を参照してください。SAP システムアプリケーションサーバーのホストは、SAS RFC サーバーのホストに認識されている必要があります。あるいは、

SAP システムアプリケーションサーバーを認識するために IP アドレスを使用することも可能です。TCP/IP サービスファイルには、通信に使用されるサービス、ポート、プロトコルのエントリを含む必要があります。

以下は、サービスファイルのエントリの例です。

```
sapdp00 3200/tcp
sapdp01 3201/tcp
...
sapdp99 3299/tcp
sapgw00 3300/tcp
sapgw01 3301/tcp
...
sapgw99 3399/tcp
sapsp00 3400/tcp
sapsp01 3401/tcp
...
sapsp99 3499/tcp
```

注意： SAPGUIがマシンにインストールされている場合は、TCP/IPサービスファイルにすでにそのエントリが含まれています。

権限プロファイル

SAS/ACCESS Interface to R/3 をインストールして使用するには、ユーザーID と一定の権限が必要です。1つの権限には1つの権限オブジェクトがあります。複数の権限は、1つの権限プロファイルの中にまとめることができます。

SAS RFC サーバーのバッチ機能が使用されている場合は、RFC ユーザーID はすでに引き渡されたバッチジョブをサブミットする権限を持つ必要があります。

RFC ユーザーID には次の権限オブジェクトのための権限が必要です。

オブジェクト	値の最低条件	既定の権限の例	注意
S_RFC (RFCアクセスのための権限確認)	ACTVT: * RFC_NAME: * RFC_TYPE: *	S_RFC_ALL	
S_TABU_DIS (SM31のような標準ツールを使ったテーブルメンテナンス)	ACTVT: 03 DICBERCLS: *	S_TABU_SHOW	
S_BTCH_JOB (バックグラウンド処理 : バックグラウンドジョブの実行)	JOBACTION: RELE JOBGROUP: *		RFCサーバーのバッチ機能が使われる場合のみ必須。

既存の権限、例えば、S_TABU_SHOW などでも使用可能です。S_RFC および S_TABU_DIS 権限は、プロファイル A_ANZEIGE のなかにあります。

第 3 章 SAS/ACCESS Interface to R/3 のインストール

概要

SAS 9.3 Foundation のインストール中に、他のインストールしたいソフトウェアと同様に SAS/ACCESS Interface to R/3 のインストールを選択する必要があります。詳細は、使用するオペレーティングシステムの『SAS 9.3 Foundation インストールガイド』を参照してください。

インストール後の設定

概要

このセクションでは、SAS/ACCESS Interface to R/3 のインストール後のセットアップについて説明します。

注意： z/OS版のSAS/ACCESS Interface to R/3の設定は、SAPデータにアクセスするためにこれまで通りRFCサーバーを使用する点が他と異なります。z/OSでの設定についての詳細は、第4章を参照してください。

次の手順が必要です。

SAS Server 上の設定：

1. SAP が提供している Unicode RFC ライブラリをインストールする
2. 環境変数を設定する

SAP システム上の設定：

1. SAP 移送ファイルを SAP システムにインポートする
2. RFC 接続先の管理
3. 接続先グループの /SAS/DESTS テーブルを保守する
4. SAP BW/BI 認証確認のための BAdI Implementation を有効化する

SAS Server

手順 1：SAP が提供している Unicode RFC ライブラリをインストールする

SAS/ACCESS Interface to R/3 は、64-bit 版の SAP Unicode RFC ライブラリ Release 7.10 が必要です。このライブラリは、SAS Server 上にインストールされる必要があります。これらの共有ライブラリは、SAP 社から提供されます。SAP Note 413708 の手順に従い、使用するプラットフォームに対応する 64-bit Unicode ライブラリをダウンロードおよびインストールしてください。

手順 2：環境変数の設定

SAS/ACCESS Interface to R/3 の実行ファイルは、SAP の共有ライブラリを使用します。SAP RFC 共有ライブラリの場所をオペレーティングシステム固有の共有ライブラリパス環境変数に追加する必要があります。Windows では、システムパスに共有ライブラリがインストールされているか、またはインストールされた SAP Unicode RFC ライブラリがパス環境変数に追加されているか確認してください。UNIX の場合、下記の表にある RFC 共有ライブラリがインストールされているディレクトリの `rfclib_directory` を置き換えてください。

AIX	
Bシェル	<code>\$ LIBPATH=rfclib_directory:\$LIBPATH</code> <code>\$ export LIBPATH</code>
Cシェル	<code>\$ setenv LIBPATH rfclib_directory:\$LIBPATH</code>
HP-UX	
Bシェル	<code>\$ LD_LIBRARY_PATH=rfclib_directory:\$LD_LIBRARY_PATH</code> <code>\$ export LD_LIBRARY_PATH</code>
Cシェル	<code>\$ setenv LD_LIBRARY_PATH=rfclib_directory:\$LD_LIBRARY_PATH</code>
HP-UX Itanium	
Bシェル	<code>\$ LD_LIBRARY_PATH=rfclib_directory:\$LD_LIBRARY_PATH</code> <code>\$ export LD_LIBRARY_PATH</code>
Cシェル	<code>\$ setenv LD_LIBRARY_PATH=rfclib_directory:\$LD_LIBRARY_PATH</code>
Linux (Intel) 、x64 Linux、Solaris、x64 Solaris	
Bシェル	<code>\$ LD_LIBRARY_PATH=rfclib_directory:\$LD_LIBRARY_PATH</code> <code>\$ export LD_LIBRARY_PATH</code>
Cシェル	<code>\$ setenv LD_LIBRARY_PATH=rfclib_directory:\$LD_LIBRARY_PATH</code>

SAS/ACCESS Interface to R/3 コンポーネントのインストール**前提条件****SAPGUI**

SAS/ACCESS Interface to R/3 コンポーネントのインストールには、SAPGUI が使用する PC もしくはワークステーションにインストールされている必要があります。

注意：SAPGUIは、SAS/ACCESS Interface to R/3をインストールするのと同じマシンにインストールされていることが必須ではありませんが、インストール中にSAPGUIにアクセスする必要があります。SAPGUIの利用がSAPの機能を補完するため、SAPGUIを同じPCもしくは、ワークステーションにインストールすることを推奨しています。

SAP 管理者 ID

有効な SAP ユーザーID とパスワードが必要です。ユーザーにはファイル転送と RFC の接続先のメンテナンスをする権限が必要です。これらのタスクを実行するため、SAP システム管理者の協力を得ることを強く推奨します。

手順 1 : ABAP プログラムとファンクションモジュールのインストール

デリバリ移送ファイルは、SAS/ACCESS Interface to R/3に含まれています。この移送ファイルには、SAS/ACCESS Interface to R/3の実行に必要なすべての ABAP プログラム、ファンクションモジュール、およびコンポーネントが含まれています。

デリバリ移送ファイルは、各 SAP アプリケーションサーバーにインポートされ、それに SAS がアクセスします。SAP システムがアップグレードされた場合、デリバリ移送ファイルを再びインポートする必要があります。

このファイルには、2種類の移送ファイルが含まれています。1つは、SAP Release 7.0 以前のリリースに対応したもの、もう1つは、SAP Release 7.0 以上に対応したものです。使用するシステムに適用する移送ファイルをインポートすることが必要です。

SAP NetWeaver 7.0以前のSAPシステム (kernel 6.40以前のもの)		
移送ファイル	目的	適用先
SAPKA923120INSAS 注意：この移送ファイルを先にインストールする必要があります。	SAS SAP LIBNAMEエンジンのサポート	SASからアクセスされるすべてのSAPシステム
SAPKA93021INSAS	SAP R/3システムからの指定/階層抽出のサポート	SAP R/3とSAP ECCシステムのみ
SAPKB92020INSAS	SAS Data Surveyor for SAP BW (BWソースデザイナ)のメタデータ抽出をサポート	SAP BWシステムのみ
SAPKA93022INSAS	CALLRFCプロシジャ用のユーティリティルーチン	すべてのSAPシステム
SAPKH93020INSAS	HRクラスタテーブルの抽出サポート	SAP R/3システムおよびSAP ECCシステム。SAP BWシステムには対応しない。

SAP NetWeaver 7.0 Based Systems以上		
移送ファイル	目的	適用先
SAPKA93130INSAS 注意：この移送ファイルを先にインストールする必要があります。	SAS SAP LIBNAMEエンジンのサポート	SASからアクセスされるすべてのSAPシステム
SAPKA93031INSAS	SAP R/3システムからの指定/階層抽出のサポート	SAP ECCシステムのみ
SAPKB93030INSAS	SAS Data Surveyor for SAP BW (BWソースデザイナ)のメタデータ抽出をサポート	SAP BWシステムのみ
SAPKB93031INSAS	新しいBI 7.0認証コンセプトのサポート	オプション：SAP BI 7.0システム以上で、新しい認証コンセプトを使用する場合にのみ適用する
SAPKA93032INSAS	CALLRFCプロシジャ用のユーティリティルーチン	すべてのSAPシステム
SAPKH93030INSAS	HRクラスタテーブルの抽出サポート	SAP R/3システムおよびSAP ECCシステム。SAP BWシステムには対応しない。

移送ファイルを使用している SAP R/3 システムにインポートするには、以下の手順に従ってください。手順は、オペレーティングシステムレベルでの tp プログラム（SAP システム間の移送のためのユーティリティ）の使用に基づいています。

注意： この手順にある、!SASROOTは、SASがインストールされている実際のディレクトリパスに置き換える必要があります。

1. SAP アプリケーションサーバーに SAP システム管理者としてログインします。
2. 移送ファイルを SAS の場所から使用している SAP システムの適切なディレクトリに移動します。

Windows 上の SAP アプリケーションサーバーのための手順

!SASROOT\access\sasmisc\ (Windows に SAS がインストールされている場合) または、!SASROOT/misc/dbi (UNIX 上に SAS がインストールされている場合)、もしくは、/usr/lpp/SAS/SAS_9.3/USER.PRE/FIX/dbi (z/OS の UNIX ファイルシステムにインストールされている場合) にある、r3.trans.tar ファイルを SAP アプリケーションサーバーにコピーし、exe ファイルを移送ディレクトリ (たとえば、<drive>:\usr\sap\trans) に解凍します。

UNIX 上の SAP アプリケーションサーバーのための手順

!SASROOT\access\sasmisc\ (Windows に SAS がインストールされている場合) または、!SASROOT/misc/dbi (UNIX 上に SAS がインストールされている場合)、もしくは、/usr/lpp/SAS/SAS_9.3/USER.PRE/FIX/dbi (z/OS の UNIX ファイルシステムにインストールされている場合) にある、r3.trans.tar ファイルを SAP アプリケーションサーバーにコピーし、exe ファイルを移送ディレクトリ (たとえば、<drive>:\usr\sap\trans) に解凍します。

tar ファイルがユーザーの HOME ディレクトリにダウンロードされたと仮定して、次の手順に従って /usr/sap/trans にある cofiles と data サブディレクトリにファイルを解凍します。

```
$ cd /usr/sap/trans
$ tar -xvf $HOME/r3trans.tar
```

3. 次のコマンドを使用して、移送プログラムディレクトリを変更します。

Windows の場合：

```
<drive>:cd \usr\sap\trans\bin
```

UNIX の場合：

```
$ cd /usr/sap/trans/bin
```

4. 次のコマンドを使用して、移送ファイルを移送バッファにロードし、SAP システムに移送ファイルをインポートします。<sid>は、SAP システムのシステム ID に置き換えてください。

```
tp addtobuffer SAPKA93120INSAS <sid>
```

```
tp import SASPKA93120INSAS <sid> U2
```

注意： 移送コントロールプログラムtpを使うための確なプロファイルを使っているか確認してください。場合によっては、TPPARAMファイルを指定するためにpf=パラメータを使う必要があります。

注意： 移送ファイルは、ログファイル名を使用しているため、nbufform=true TP オプションを指定する必要があります。このオプションは、SAPシステム側でトランザクションSTMSをつかって設定するか、もしくは、tpコマンドのパラメータとして指定することができます。また、TPオプション tp_version=には、ログファイル名を許可するため最低でも264を設定する必要があります。

注意： U2オプションは、ABAPオブジェクトを過去にインストールしたことがある場合に、元の値を上書きすることを許可します。

注意： 移送ファイルには、クライアントから独立しているABAPオブジェクトのみが含まれます。したがって、tp importでは、移送用に適切に設定されたすべての既存のクライアントを使用することができます。移送に使用するクライアントで、ABAPプログラムRDDIMPDPが正しくスケジュールで着ていることを確認してください。

注意： 移送ファイルがUnicode SAPシステムにインポートされる場合、Unicodeフラグを移送プログラムにセットするために移送プロファイルパラメータ「setunicodedeflag=true」を使用します。SAP Note 330267に詳細が記載されていますので、ご確認ください。「setunicodedeflag=true」は、SAP NetWeaver 7.0 based system以降のための移送ファイルを使用する場合は、必要ありません。これらの移送ファイルは、Unicodeフラグと一緒に作成されます。

これらの注意を考慮すると、tp コマンドには追加パラメータが必要です。<sid>は、SAP システムのシステム ID に置き換えてください。

重要： 次の例に複数の行で記載されているtpコマンドは、単一のコマンドラインに入力すべきものです。以下の例のいずれかからテキストをコマンドラインに追加する際は、前に必ずスペースを補ってください。

Windows版、SAP NetWeaver 7.0以前のSAP リリース (Kernel 6.40以前) のUnicode版ではないSAP Server
<pre>tp addtobuffer SAPKA93120INSAS <sid> pf=\usr\sap\trans\bin\TP_DOMAIN_<sid>.PFL -D"nbufferform=true" -D"tp_version=264" tp import SAPKA93020INSAS <sid> pf=\usr\sap\trans\bin\TP_DOMAIN_<sid>.PFL -D"nbufferform=true" -D"tp_version=264"</pre>
UNIX版、SAP NetWeaver 7.0以前のSAP リリース (Kernel 6.40以前) のUnicode版ではないSAP Server
<pre>\$ tp addtobuffer SAPKA93120INSAS <sid> pf=/usr/sap/trans/bin/TP_DOMAIN_<sid>.PFL -D"nbufferform=true" -D"tp_version=264" \$ tp import SAPKA93120INSAS <sid> pf=/usr/sap/trans/bin/TP_DOMAIN_<sid>.PFL -D"nbufferform=true" -D"tp_version=264"</pre>
Windows版、SAP NetWeaver 7.0以前のSAP リリース (Kernel 6.40以前の) のUnicode SAP Server
<pre>tp addtobuffer SAPKA93120INSAS <sid> pf=\usr\sap\trans\bin\TP_DOMAIN_<sid>.PFL -D"nbufferform=true" -D"tp_version=264" -D"setunicodedeflag=true" tp import SAPKA93120INSAS <sid> pf=\usr\sap\trans\bin\TP_DOMAIN_<sid>.PFL -D"nbufferform=true" -D"tp_version=264" -D"setunicodedeflag=true"</pre>
UNIX版、SAP NetWeaver 7.0以前のSAP リリース (Kernel 6.40以前の) Unicode SAP Server
<pre>\$ tp addtobuffer SAPKA93120INSAS <sid> pf=/usr/sap/trans/bin/TP_DOMAIN_<sid>.PFL -D"nbufferform=true" -D"tp_version=264" -D"setunicodedeflag=true" \$ tp import SAPKA93120INSAS <sid> pf=/usr/sap/trans/bin/TP_DOMAIN_<sid>.PFL -D"nbufferform=true" -D"tp_version=264" -D"setunicodedeflag=true"</pre>
Windows版、SAP NetWeaver 7.0 based Systems以降のUnicode SAP Server
<pre>tp addtobuffer SAPKA93130INSAS <sid> pf=\usr\sap\trans\bin\TP_DOMAIN_<sid>.PFL -D"nbufferform=true" tp import SAPKA93130INSAS <sid> pf=\usr\sap\trans\bin\TP_DOMAIN_<sid>.PFL</pre>
UNIX版、SAP NetWeaver 7.0 based Systems以降のUnicode SAP Server
<pre>\$ tp addtobuffer SAPKA93130INSAS <sid> pf=/usr/sap/trans/bin/TP_DOMAIN_<sid>.PFL -D"nbufferform=true" \$ tp import SAPKA93130INSAS <sid> pf=/usr/sap/trans/bin/TP_DOMAIN_<sid>.PFL -D"nbufferform=true"</pre>

終了コードを確認してください。8もしくはそれ以上のエラーコードを受け取った場合は、インポートは失敗しています。問題を解決し、移送ファイルを再インポートする必要があります。詳細は、移送ログを参照してください。

5. SAP インストールに適用される移送ファイルごとに4の手順を繰り返します。

手順 2 : RFC 接続先の設定

注意 : SASサーバーがSAPバッチ実行機能（推奨）を使用してリクエストを処理する場合は、この手順の実行が必要です。

SAP システムにバッチでアクセスするため、SAS システムは複数の RFC 接続先（TCP/IP 接続タイプ）を使用します。SAS のために設定する接続先の数は、SAP アプリケーションサーバーへの同時接続する SAS のリクエストの数を制限します

たとえば、次のようになります。

接続タイプ T、SAS サーバーで使用できる有効化タイプ [Registered Server Program] で 6 つの接続先を作成してください。Registered Server Program のプログラム ID は、SAP ゲートウェイ上のユニークなものでなければなりません。

RFC接続先名	プログラムID
SAS1	RFC.SAS1
SAS2	RFC.SAS2
SAS3	RFC.SAS3
SAS4	RFC.SAS4
SAS5	RFC.SAS5
SAS6	RFC.SAS6

次の手順を実行してください。

1. SAP でトランザクション SM59 を呼び出します。コマンドフィールドにトランザクションコード /nsm59 を入力します。
2. [作成 (Create)] を選択します。
3. RFC 接続先として SAS1 を入力します。
4. 接続タイプとして T を入力します。
5. 接続先の記述を入力します。
6. [実行 (Enter)] を選択します。
7. 有効化タイプ (Activation Type) の [登録 (Registration)] または、「Technical Setting」タブの [Registered Server Program] を選択します。
8. プログラム ID として RFC SAS1 を入力します。
9. 必要に応じて、ゲートウェイホストとゲートウェイサービスを「ゲートウェイオプション (Gateway Options)」パネルで入力します。ゲートウェイホストは、ローカルゲートウェイのホスト名であり、ゲートウェイサービスは、通常 sapgw<sysnr>です。<sysnr>は、使用している SAP システムのシステム番号で置き換えてください。
10. Unicode SAP システムでは、「MDBP&Unicode」タブで [Unicode] を選択します。Unicode テストの実行に関するメッセージはしてください。Unicode テストは、SAS のために作成された接続先を使って実行することができません。
11. 接続先を保存します。
12. すべての新しい RFC 接続先に対してこの手順を繰り返します。

手順 3 : 接続先グループの/SAS/DESTS テーブルのメンテナンス

RFC 接続先は、これまでの手順で接続先グループに含まれるものとして定義されている必要があります。このグループは、/SAS/DESTS テーブルに定義されています。このテーブルは、SAP システムにアクセスするすべての SAS サーバーから接続先へのアクセスを制御するために使用されます。

接続先グループは、SAP のための SAS Libname エンジンのパラメータです。デフォルトは、「SAS1」です。

次の手順を実行してください。

1. SAP でトランザクション SM30 を呼び出します。コマンドフィールドにトランザクションコード/nsm30 を入力します。
2. [Table] フィールドにテーブル名/SAS/DESTS/を入力します。
3. [Restrict Data Range] フィールドで「No Restriction」を選択します。
4. [Maintain] ボタンをクリックします。
5. このテーブルが Cross-client だというメッセージを承認します。
6. [New Entries] ボタンをクリックします。
7. 手順 2 で定義した RFC 接続先ごとに SAS ID として接続先グループ ID と RFC 接続先命を入力します。たとえば、接続先グループ SAS1 の接続先を定義する場合、次のようになります。

SAS ID	RFC接続先	使用
SAS1	SAS1	
SAS1	SAS2	
SAS1	SAS3	
SAS1	SAS4	
SAS1	SAS5	
SAS1	SAS6	

8. テーブルを保存します。

手順 4 : SAP BW/BI 認証のための BAdI Implementation の有効化

SAS/ACCESS to R/3 は、テーブルアクセスの認証確認に 3 つの基本 Implementation があります。デフォルトの Implementation は、SAP 認証オブジェクト S_TABU_DIS を認証の確認に使用します。これ以外の 2 つの Implementation のいずれかを使用する場合、適切な BAdI Implementation を有効化する必要があります。

BAdI Implementation	
<デフォルト>	認証オブジェクト S_TABU_DIS
クラシック BAdI /SAS/AUTHBW01	BWとBIの場合：InfoCube、InfoObjectおよびODSレベルでのユーザー認証確認は、レポート認証（SAPの標準認証コンセプト）を使用します。
新しいBAdI拡張 /SAS/IM_AUTHBI01	BI 7.0以上のみ：ユーザー認証確認は、Analysis Authorizationを使用します。これは、InfoProvider（InfoCube、InfoObject、DSO）のための認証確認の提供だけではなく、マスターデータの属性とキーフィギュアのラムレベルの制限、属性の列レベルの制限も提供します。

SAP NetWeaver BI 7.0 以前の SAP は、SAP の標準認証コンセプトを使用したレポート認証コンセプトを使用します。これらの認証確認のために SAS Implementation を有効化するには、次の手順に従ってください。

1. SAP でトランザクション SE19 を呼び出します。コマンドフィールドにトランザクションコード/nse19 を入力します。
2. Implementation として /SAS/AUTHBW01 を入力します。
3. [Activate (有効化)] ボタンを選択するか、または、メニューから [Implementation] > [Activate] を選択します。

BI 7.0 で SAP は、Analysis Authorization のための新しい認証コンセプトを導入しました。これらの SAS Implementation のための認証チェックを使用するには、適切な移送ファイルをインポートしてください (SAPKB92331INSAS)。この Implementation はデフォルトで有効化されています。無効化したい場合は、次の手順に従ってください。

1. SAP でトランザクション 19 を呼び出します。コマンドフィールドにトランザクションコード/nse19 を入力します。
2. [Edit Implementation] フィールドで [New BAdI] チェックボックスを選択します。
3. Enhancement Implementation として、/SAS/IM_AUTHBW01 を入力します。
4. [Change] ボタンをクリックします。
5. BAdI Implementation (/SAS/BADI_CHECK_FILTER など) 上で、ダブルクリックして無効化し、[Runtime Behavior] フィールドの [Implementation is active] チェックボックスの選択を解除します。[Enhancement Implementation Elements] タブの左側のリストにある各 Implementation で同じ手順を繰り返します。
6. 保存し、変更を有効にします。

第4章 z/OS 上の SAS/ACCESS Interface to R/3 のインストール

概要

SAS 9.3 Foundation のインストール中に、他のインストールしたいソフトウェアと同様に SAS/ACCESS Interface to R/3 のインストールを選択する必要があります。詳細は、使用するオペレーティングシステムの『SAS 9.3 Foundation インストールガイド』を参照してください。

z/OS 版 SAS/ACCESS Interface to R/3 は、SAS システムと SAP サーバーとの通信に SAS RFC サーバーを使用します。RFC サーバーと RFC 接続先および RFC サーバーに使用されるバリエーションを設定する手順には、第3章に記載されている SAS サーバーと SAP システムの通信に関する記述とは異なるものがあります。いくつかの手順は両方に共通しているため、それらについては第3章を参照してください。

z/OS 版の SAS/ACCESS Interface to R/3 は、Windows 版 AIX 版、z/OS 版の SAS RFC サーバーを含みます。RFC サーバーは、SAS サーバー上、または、SAP サーバー、もしくは、システムに含まれるそれ以外のサーバー上に置くことができます。SAS RFC サーバーをどこにインストールするかを決めて、選択した構成のための手順に従ってください。

インストール後の設定

概要

ここでは、z/OS 上の SAS/ACCESS Interface to R/3 のインストール後の設定について説明します。

次の手順に従ってください。

SAS Server 上の設定：

1. SAP が提供している RFC ライブラリをインストールする
2. RFC サーバーをインストールする
3. 環境変数を設定する

SAP サーバー上の設定：

1. SAP 移送ファイルを SAP システムにインポートする
2. RFC 接続先のメンテナンス
3. バリエーションの作成
4. SAP BW/BI 認証確認のための BAdI Implementation を有効化する

UNIX System Services 上の RFC サーバー

SAP が提供している RFC ライブラリをインストールする

z/OS の場合、SAS/ACCESS Interface to R/3 は、32-bit 版の SAP RFC ライブラリ Release 6.40 が必要です。ライブラリは、SAS RFC サーバーがインストールされている場所にインストールする必要があります。これらの共有ライブラリは SAP 社から提供されます。

SAP Note 413708 の手順に従い、z/OS プラットフォームに対応する 32-bit RFC ライブラリをダウンロードおよびインストールしてください。

RFC サーバーのインストール

SAS RFC サーバーは、UNIX システムサービス上で実行します。

- 『Configuration Guide for SAS 9.3 Foundation for z/OS』に概要が記載されている USSUNTAR プロセスは、R/3 ファイルを HFS に移送します。このプロセスを実行していない場合は、次に進む前にこのプロセスを完了させるために『Configuration Guide for SAS 9.3 Foundation for z/OS』の「Chapter 1 Installing UNIX File System Components」を参照してください。
- SAS RFC サーバーのためのファイルを抽出するには、次のコマンドを使用してください。このコマンドは、SAS RFC サーバーのターゲットインストールディレクトリ（たとえば、/usr/lpp/SAS/SAS_9.3/USER.PRE.FIX/dbi）で発行する必要があります。

```
$ /usr/lpp/SAS/SAS_9.3/USER.PRE.FIX/dbi
```

```
$ tar -xvof osrfc.tar
```

環境変数の設定

SAS RFC サーバーは RFC サーバー用の共有ライブラリと、その他の共有ライブラリを使用します。システム環境変数 LIBPATH に、共有ライブラリの場所を追加する必要があります。SAS RFC サーバーの場所が環境変数 PATH に追加されている必要があります。

下記はその一例です：rfclib_directory を RFC 共有ライブラリがインストールされているディレクトリに置き換えてください。

UNIX System Services (USS) – Open Edition の場合	
B シェル	<pre>\$ LIBPATH=/usr/lpp/SAS/SAS_9.2/USER.PRE.FIX/dbi:rfclib_directory:\$LIBPATH \$ export LIBPATH \$ PATH=/usr/lpp/SAS/SAS_9.2/USER.PRE.FIX/dbi:\$PATH \$ export PATH</pre>

Windows 上の RFC サーバー

SAP が提供している RFC ライブラリをインストールする

RFC サーバーは、SAP RFC ライブラリ Release 7.10 が必要です。

Unicode RFC サーバーは、SAP Unicode RFC ライブラリ Release 7.10 が必要です。

ライブラリは、SAS RFC サーバーがインストールされているサーバー上にインストールする必要があります。

これらの共有ライブラリは、SAP 社から提供されます。SAP Note 413708 の手順に従って、使用するプラットフォーム用のライブラリをダウンロードおよびインストールしてください。

RFC ライブラリをインストールする方法として、SAP 社が提供している SAP GUI もしくは、RFC ソフトウェア開発キット (RFC SDK) をインストールすることを推奨しています。

RFC サーバーのインストール

下記の手順を使用して RFC サーバーをインストールしてください。

1. SAS RFC サーバーのためのディレクトリを作成してください。たとえば、C:\SAS\RFC など。
2. `ntsasrfc.exe` ファイルを SAS/ACCESS Interface to R/3 ソフトウェアがインストールされているマシンから Windows マシンのインストールディレクトリへダウンロードします。このファイルは、UNIX ファイルシステムコンポーネントとしてインストールされ、`/usr/lpp/SAS/SAS_9.3/USER.PRE.FIX/dbi` に格納されます。
3. 自動実行ファイル `ntsasrfc.exe` をダブルクリックし、インストールディレクトリにファイルを解凍してください。

SAS RFC サーバーは SAS/ACCESS Interface to R/3 がロードされた後、インストール後の設定の中でサービスとしてインストールすることが可能です。SAS RFC サーバーコマンドの詳細な説明は、『SAS/ACCESS 4.4 Interface to R/3: User's Guide』の「Using the SAS RFC Server」を参照してください。

4. SAS RFC サーバーを起動するには、複数のオプションがあります。SAS RFC サーバーを手動で開始したり、SAS RFC サーバーを PC が再起動したときや要求に応じて自動的に開始するようにサービスとしてインストールしたりすることができます。

手動で SAS RFC サーバーを開始するには

- a. [スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [サービス] の順に選択し、[サービス] を表示します。
- b. [SAS RFC Service V9] をクリックします。
- c. [開始] ボタンをクリックします。

TCP/IP ポートのためのオプションパラメータが使用される可能性があります。インストールコマンドに TCP/IP ポートパラメータを含めた場合、サービスは常にそのポートで開始します。

サービスとしてインストールし、SAS RFC サーバーを PC が再起動したときに開始するようにするには、次のコマンドをコマンドプロンプトに入力してください。

```
cd \sas\sasrfc
sasrfc_server -i2
```

サービスとしてインストールし、SAS RFC サーバーを要求に応じて開始するには、次のコマンドをコマンドプロンプトに入力してください。

```
cd \sas\sasrfc
sasrfc_server -i3
```

注意： Unicode RFCサーバーをサービスとしてインストールするには、上記のコマンドを `sasrfc_server` から `sasrfc_serveru` へ置き換えてください。

AIX 上の RFC サーバー

SAP が提供している RFC ライブラリをインストールする

AIX 上の RFC サーバーでは、64-bit 版の SAP RFC ライブラリ Release 7.10 がインストールされます。AIX 上の Unicode RFC サーバーでは、64-bit 版の SAP Unicode RFC ライブラリ Release 7.10 がインストールされます。これらの共有ライブラリは、SAP 社から提供されます。SAP Note 413708 の手順に従って、AIX 用の共有ライブラリをダウンロードしてください。

RFC サーバーのインストール

下記の手順に従って、RFC サーバーをインストールしてください。

1. SAS RFC サーバーのためのディレクトリを作成してください。たとえば、`/usr/local/sas/sasrfc` など。
2. `aixrrfc.tar` ファイルを SAS/ACCESS Interface to R/3 ソフトウェアがインストールされているマシンから UNIX マシンのインストールディレクトリへダウンロードします。z/OS の場合、このファイルは、UNIX ファイルシステムコンポーネントとしてインストールされ、`/usr/lpp/SAS/SAS_9.3/USER.PRE.FIX/dbi` に格納されます。
3. ターゲットインストールディレクトリを変更します。たとえば、次のコマンドを発行します。

```
$ cd /usr/local/sas/sasrfc
```

4. `aixrrfc.tar` ライルをリストアします。

```
$ tar -xvof aixrrfc.tar
```

環境変数の設定

SAS RFC サーバーは RFC サーバー用の共有ライブラリと、その他の共有ライブラリを使用します。共有ライブラリパスのシステム環境変数に、共有ライブラリの場所を追加する必要があります。また、SAS RFC サーバーの場所の環境変数 `PATH` への追加が必要です。

環境変数の設定例は、次のようになります。`rfclib_directory` を RFC 共有ライブラリがインストールされているディレクトリに置き換えてください。

AIXの場合	
Bシェル	<pre>\$ LIBPATH=rfclib_directory:\$LIBPATH \$ export LIBPATH \$ PATH=/usr/local/sas/sasrfc:\$PATH \$ export PATH</pre>
Cシェル	<pre>\$ setenv LIBPATH rfclib_directory:\$LIBPATH \$ setenv PATH /usr/local/sas/sasrfc:\$PATH</pre>

SAS/ACCESS Interface to R/3 コンポーネントのインストール

前提条件

第 3 章を参照してください。

手順 1: ABAP プログラムとファンクションモジュールのインストール

第 3 章を参照してください。

手順 2 : RFC 接続先の設定

注意 : SAS RFCサーバーがSAPバッチ実行機能 (推奨) を使用してリクエストを処理する場合は、この手順を実行する必要があります。

SAP システムにバッチでアクセスするため、SAS システムは RFC 接続先 (TCP/IP 接続タイプ) を使用します。接続先は、SAP アプリケーションサーバーがアクセスする SAS RFC サーバーごとに SAP システム上に設定する必要があります。

たとえば、2つの RFC サーバーが SAP システムからのデータにアクセスする場合、2つの接続先を設定する必要があります。接続タイプ T、有効化タイプ Registered Server Program で 2つの接続先を作成します。

RFC接続先名	プログラムID
SASDEST1	RFC.SASDEST1
SASDEST2	RFC.SASDEST1

プログラム ID は完全にユニークなものでなければなりません。

注意 : Unicode SAPシステム上では、接続先は、Unicode接続先として定義する必要があります。[RFC Destination definition] 画面の [Special Options] タブでUnicodeフラグを確認してください。

次の手順に従ってください。

1. SAP でトランザクション SM59 を呼び出します。コマンドフィールドにトランザクションコード /nsm59 を入力します。
2. [作成 (Create)] を選択します。
3. RFC 接続先として、SASDEST1 を入力します。
4. 接続タイプとして T を入力します。
5. 接続先の記述を入力します。
6. [実行 (Enter)] を選択します。
7. 「有効化タイプ (Activation Type)」の [登録 (Register)] または、[Technical Setting] タブの [Registered Sever Program] を選択します。
8. プログラム ID として RFC.SASDEST1 を入力します。
9. 必要に応じて、ゲートウェイホストとゲートウェイサービスを「ゲートウェイオプション (Gateway Options)」パネルで入力します。ゲートウェイホストは、ローカルゲートウェイのホスト名であり、ゲートウェイサービスは通常 sapgw<sysnr>です。<sysnr>は、使用している SAP システムのシステム番号で置き換えてください。
10. Unicode SAP システムでは、「MDBP&Unicode」タブまたは、「Special Options」タブで [Unicode] を選択してください。Unicode テストの実行に関するメッセージは無視してください。Unicode テストは、SAS のために作成された接続先を使って実行することができません。
11. 接続先を保存します。

12. すべての新しい RFC 接続先に対してこの手順を繰り返します。

手順 3：バリエーションの作成

注意： SAS RFCサーバーがSAPバッチ実行機能（推奨）を使用してリクエストを処理する場合は、この手順を実行する必要があります。

定義された RFC 接続先ごとに、接続先を参照するバリエーション（Variant）を作成する必要があります。バリエーションがクライアント依存であることに注意してください。

バリエーションは、実行時にパラメータが ABAP プログラムを通過することを許可する SAP の仕様です。ABAP プログラムを変更することなく、ABAP パラメータを設定するフレキシブルな方法を提供します。バリエーションには、実行時に ABAP プログラムに要求される値が含まれます。トランザクション SE38 に進み、用意されているプログラムの [Variant] ラジオボタンを選択することで、ランタイムの値を設定することができます。ABAP バリエーション（ABAP variant）は、入力値が定義されている Select-Options ステートメントを使って記述されます。

接続先の作成例を使用すると、プログラム/SAS/Z_SAS_READ に 2 つのバリエーションが作成されます。G_BUFMAX のデフォルトの値は、10.000 です。G_BUFMAX により大きな値を設定して高速ネットワーク設定をすることにより、より良いパフォーマンスを得ることができます。

バリエーション名	G_BUFMAX	G_DEST
ZVARIANT1	100.000	SASDEST1
ZVARIANT2	100.000	SASDEST2

次の手順に従ってください。

1. SAP でトランザクション SM38 を呼び出します。コマンドフィールドにトランザクションコード/nsm38 を入力します。
2. /SAS/Z_SAS_READ をプログラム名に入力します。
3. [Variant（バリエーション）] ラジオボタンを選択します。
4. [Change（変更）] ボタンを選択します。
5. ZVARIANT1 をバリエーション名に入力します。
6. [Create（作成）] ボタンをクリックします。
7. G_BUFMAX と G_DEST の値を入力します。
8. [Attributes（属性）] ボタンをクリックします。
9. バリエーションの記述を入力します。
10. バリエーションを保存します。
11. すべての新しいバリエーションに対してこの手順を繰り返します。

下記の例では、2 つのバッチ RFC サーバーが 2 つの異なるホスト上で開始されます。

サーバー 1：

```
sasrfc_server -p 6999 -v ZVARIANT1 -d 1
```

サーバー2 :

```
sasrfc_server -p 6999 -V ZVARIANT2 -d 1
```

SAS RFC サーバーコマンドの詳細な説明は、『SAS/ACCESS 4.4 Interface to R/3: User's Guide』の「Using the RFC Server」を参照してください。

手順 4 : SAP BW/BI 認証確認のための BAdI Implementation の有効化

第 3 章を参照してください。

第5章 データディクショナリ抽出

データディクショナリ抽出

注意： SAPデータアクセスの管理にフロントエンドでSAS Data Surveyor for SAPを使っている場合、データディクショナリ抽出には、SAS管理コンソールを使用してください。

SAS/ACCESS Interface to R/3 は、SAP システムからのメタデータのコピーを R/3 データのナビゲートや読み込み時のプログラム生成に使用します。SAP のデータディクショナリから必要なメタデータを抽出することは、インストール手順の1つになっています。ディクショナリ抽出プロセスを開始する前に、SAS RFC サーバーがインストールされ、SAP システムが SAS/ACCESS Interface to R/3 用に設定されている必要があります。

開発用と本番用の SAP システムが、同じレベル、バージョン、リリースだった場合、R/3 開発環境からのデータディクショナリのみ抽出してください。しかし、他の SAP システムが開発用のものとレベル、バージョン、リリースが異なる場合は、それぞれのデータディクショナリから抽出してください。SAP システムのレベル、バージョン、リリース毎にメタデータが異なるため、この手順が必要です。

新しい R/3 システム構造が追加されたり、既存のものが変更されたりした場合は、変更を反映させるためにメタデータを再抽出してください。

手順1：SAS RFC サーバーの開始

この手順は、z/OS 版 SAS/ACCESS Interface to R/3 でのみ必要な手順です。

第4章の「インストール後の設定」に記述されている設定ができていないか環境を確認してください。

SAS RFC サーバーコマンドの詳細な説明は、『SAS/ACCESS 4.4 Interface to R/3: User's Guide』の「Using the RFC Server」を参照してください。

SAS RFC サーバーを UNIX 上で開始するには、下記のサンプルコマンドを発行することができます。

```
sasrfc_server -d 1 -p 6999
```

SAS RFC サーバーを Windows 上で開始するには、RFC サービスを開始してください。

手順2：SAP システムへのログオン

SAP システムに接続するため、GUI (SAS/ACCESS Interface to R/3 のアプリケーション) を使用してください。GUI を起動するには、%r3access と SAS セッションのコマンドラインに入力してください。[Logon] アイコンをダブルクリックします。[Logon to R/3] ウィンドウと [Advanced Parameters] ウィンドウで、接続パラメータを入力します。下記の表には、接続パラメータとそれに対応するコメントを記載しました。

注意： 過去にSAS バージョン8で使用されていたいくつかのログオンパラメータは、バージョン9ではサポートされません。

パラメータ	コメント
Connection ID	SASの内部接続識別子（7文字、SAS名）、デフォルトはCONN1
TCP/IP host	SAS RFCサーバーホスト名、デフォルトはlocalhost
TCP/IP port	SAS RFCサーバーのポート番号、デフォルトでは6999
User ID (RFC)	必須のSAPユーザーID
Password (RFC)	必須のSAPユーザーパスワード
Client (RFC)	必須のSAPクライアント。クライアントは常に3文字で、0（ゼロ）から始まります。例えば040など。
Language (RFC)	必須のSAPログオン言語
Destination (RFC)	sideinfoファイルで定義されるRFC接続先名。sideinfoファイルが使用される場合、RFC接続先とRFCホストフィールドは空白を指定します。RFC接続先もしくは、RFCホストのいずれかを定義する必要があります。両方は必要ありません。
Host (RFC)	SAPターゲットシステムのホスト名。sideinfoファイルが使用されていない場合のみ、このフィールドにホスト名を指定します。RFC接続先もしくは、RFCホストのいずれかを定義する必要があります。両方は必要ありません。
System number	SAPターゲットシステムのシステム番号。デフォルトは、00。
Gateway service	sapgwnn形式の中間ゲートウェイのためのゲートウェイサービス。ここでは、nnがシステム番号です。デフォルトは、sapgw00。
Gateway host	中間ゲートウェイのためのホスト名

注意： 2つのSAPシステム、例えば開発環境と本番環境はひとつのマシン上で実行できます。sideinfoファイルが使用できない場合は、正しいSAPシステムに接続するために接続パラメータのシステム番号（SYS）とゲートウェイサービス（GWSERV）フィールドを設定します。

注意： sideinfoファイルは、SAS RFCサーバーがSAPシステムアプリケーションサーバー（ABAPファンクションモジュール）と通信するための付属情報を含みます。例えば、次のようになります。

```
DEST=mydest
LU=host1
TP=sapdp00
GWHOST=host1
GWSERV=sapgw00
PROTOCOL=I
```

sideinfo ファイルを UNIX 上の SAS RFC サーバーとともに使用する

1. sideinfo ファイルを変更／作成します。（sideinfo というファイル名で作成）
2. sideinfo ファイルを任意の場所にコピーします。
3. 下記のコマンドの side_info_directory を正確な保存場所に置き換えて実行します。

c シェルの場合：

```
setenv SIDE_INFO side_info_directory/sideinfo
```

k シェルの場合 :

```
export SIDE_INFO=side_info_directory/sideinfo
```

sideinfo ファイルを Windows NT 上の SAS RFC サーバーとともに使用する

1. sideinfo ファイルを変更/作成します。(sideinfo というファイル名で作成)
2. sideinfo ファイルを任意の場所にコピーします。
3. 環境変数 SIDE_INFO を絶対パスで定義します。
例えば、SET SIDE_INFO=c\sas\sr3\sideinfo のようになります。

手順 3 : 抽出プログラムの開始

メタデータを SAS にロードする間、ウィザードが手順を示します。ウィザードを開始するには、[Wizard to Load Metadata] アイコンをダブルクリックします。

[Select Import type] ウィンドウで、[Data Dictionary] もしくは、[R/3 Hierarchy] を選択し、[Next] をクリックします。

[Connection] ウィンドウでは、接続 ID、メタデータ抽出のための言語、SAP リリースを入力します。既存の抽出にマージする必要がある場合は、新しいメタデータを選択してください。[Next] ボタンをクリックします。

[Metadata Destination] ウィンドウで、メタデータ抽出用の SAS ライブラリを選択します。ライブラリ R3LIB は、SAS/ACCESS Interface to R/3 で使われるデフォルトの値です。[Next] ボタンをクリックします。

[Metadata Selection] ウィンドウで、SAP システムから抽出されるメタデータを選択します。メタデータのコンポーネントを選択もしくは非選択にすることで、メタデータ抽出をサブセットすることができます。テーブルとフィールドの抽出をサブセットするには、[Range] ボタンを選択し、[Table Subset] でテーブルの範囲を入力します。[Metadata Selection] ウィンドウで、[Next] ボタンをクリックします。

[Select File] ウィンドウで、保存される SAS 抽出プログラムのファイル名を入力することができます。そのファイルを、メタデータ抽出を再度実行するときや、抽出のための SAS バッチジョブを設定するとき使用できます。[Next] ボタンをクリックします。

[Begin Metadata Extract] ウィンドウで、これまでの設定を確認し、メタデータ抽出を開始するため [Finish] ボタンをクリックします。

手順 4 : SAP システムからのログオフ

ログオフするには、GUI (アプリケーション) を使用します。

これで、基本構成のインストールが完了しました。成功したか確認するには、「第 6 章 SAS/ACCESS Interface to R/3 の起動」の手順に従ってインストールを起動し、テストをしてください。

バッチでのデータディクショナリ抽出

SAS サンプルプログラム sr3bprof.sas には、接続パラメータを含んだプロファイルエントリの作成方法やプロファイルを使った SAP へのログオン方法の例が含まれています。

SAP にバッチでログオンするように、サンプルプログラム sr3bprof.sas を編集してください。

例えば、次のようになります。

```
/* Use sr3bprof.sas to create the profile. */  
/* Logon to R/3. See program sr3bprof.sas */  
%r3connb(profile=&profile, libref=&library, function=OPEN);  
/* Assign the libref for the Data Dictionary Extract(s). */  
libname r3lib 'the-location-of-the-Extracts';  
/* Extract the Data Dictionary Information. */  
%extrr3dd(conn=&cconn, language=E, merge=N, outlib=R3LIB);  
/* Logoff. */  
%r3connb(conn=&conn, function=CLOSE);
```

第 6 章 SAS/ACCESS Interface to R/3 の開始

SAS/ACCESS Interface to R/3 を SAS 9.3 から起動するには、SAS コマンドラインに %r3access と入力します。

インストールのテスト

1. GUI (アプリケーション) を使って、[List of tables] アイコンをクリックします。
2. テーブル名 T000 を入力します。
3. [Properties] ボタンをクリックします。
4. [Show Data] ボタンをクリックします。

テーブル T000 が正しく表示されれば、インストールは成功しています。

機能

SAP システムへ接続できなくても、SAS/ACCESS Interface to R/3 の大半の機能、例えば、データモデルのナビゲートや SAP テーブルの SAS ビューの作成、メタデータのエクスポートなどは影響を受けません。

しかし、データ抽出には SAS RFC サーバーが稼働している必要があります。SAS RFC サーバーが稼働していない場合、リターンコードが生成されます。より詳細な情報は、「手順 1 : SAS RFC サーバーの開始」を参照してください。

SAS RFC サーバーコマンドの詳細な説明は、『SAS/ACCESS 4.4 Interface to R/3: User's Guide』の「Using the RFC Server」を参照してください。

付録 A : SAP トランザクションコードの選択

下記は、インストール中に便利なトランザクションコードのリストです。

SAPGUI のコマンドラインに前に / (文字 n に続くスラッシュ) をつけてトランザクションコードを入力します。例えば、ABAP エディタの呼び出しには、/nse38 を入力します。

注意： コマンドは、大文字と小文字を区別しません。

権限、プロファイル、ユーザー	
SU01	ユーザー管理のトランザクションコード
SU02	プロファイル管理のトランザクションコード
SU03	権限管理のトランザクションコード

ABAPファンクションとプログラム	
SE37	ファンクションライブラリのトランザクションコード 他の呼び出し方法としては、SAPシステムメインメニューから [Tools] > [ABAP Workbench] を選択します。[Function Library] ボタンをクリックし、[ABAP Function Library: Initial Screen] ウィンドウを参照します。
SE38	ABAPエディタのトランザクションコード 他の呼び出し方法としては、SAPシステムメインメニューから [Tools] > [ABAP Workbench] を選択します。[ABAP Editor] ボタンをクリックし、[ABAP Editor: Initial Screen] ウィンドウを参照します。 トランザクションSE38は、ABAPプログラムのバリエーション (variant) を定義するときにも使用されます。
SE80	リポジトリブラウザのトランザクションコード 他の呼び出し方法としては、SAPシステムメインメニューから [Tools] > [ABAP Workbench] を選択します。[Repository Browser] ボタンをクリックし、[Repository Browser: Initial Screen] ウィンドウを参照します。

ビューテーブルとテーブルの管理	
SE16	テーブル表示のトランザクションコード
SM30	テーブル管理のトランザクションコード
SM31	

ジョブ管理	
SM37	ジョブステータスを表示するために使用可能なトランザクションコード

システムログ	
ST22	ABAPダンプ解析のトランザクションコード
SM21	システムログのトランザクションコード

RFC接続先	
SM59	RFC接続先の管理と表示のためのトランザクションコード

付録 B : エラーメッセージ

全てのオペレーティングシステムで起こり得るエラー

ゲートウェイサービスが見つかりません

```
ERROR: Gateway service sapgwnn not found
```

必要なエントリを含む TCP/IP サービスファイルを確認してください。また、第 2 章の「接続」のセクションも参照してください。

ホスト名が見つかりません

```
ERROR: Host hostname not found
```

ホストを定義するエントリを含む TCP/IP ホストファイルもしくは、IP アドレスを使って確認してください。また、第 2 章の「接続」のセクションも参照してください。

付録 C : 事前準備のためのチェックリスト

SAS/ACCESS Interface to R/3 をインストールする前に、下記の情報が利用できる必要があります。付録 C と付録 D で確認される情報を記録することにより、インストールや継続的な管理をかなり容易にします。

チェックリストは、セクション A、B、C の順にブレイクダウンされます。セクション A は一般的な情報で、SAS アカウント担当者によって記入可能です。セクション B は SAS 環境の管理者に、セクション C は SAP 環境の管理者に記入してもらう必要があります。

セクション B は、どこに SAS/ACCESS Interface to R/3 がインストールされるべきか、また、どこに抽出された SAP メタデータを格納すべきかを明確にするためのものです。セクション C は、どの SAP システムにアクセスするのかを明確にします。

セクション A : 一般的な情報

日付 :
会社名 :
住所 :
SAS アカウント担当者 : 電話番号 : E-mail:
SAS 担当者 (インストールの担当) : 電話番号 : E-mail:
顧客連絡先 : 電話番号 : E-mail:

セクション B : SAS 環境

SAS/ACCESS Interface to R/3 – アプリケーション

SAS 担当者 : 電話番号 : E-mail:
ネットワーク担当者 : 電話番号 : E-mail:
ホスト名 :
IP アドレス :
オペレーティングシステムのバージョン :
オペレーティングシステムのユーザー ID とパスワード :

Windowsの場合、このユーザーIDには管理者権限がありますか？ <input type="checkbox"/> はい
Windowsスクリーンセーバーパスワード :
SAS 9.3のインストールパス (例えば、C:\Program Files\SAS\SAS 9.3もしくは /usr/local/sas) :
SASインストールデータ (SETINIT) にはSAS/ACCESS to R/3 (SASから提供されている) が含まれていますか？ <input type="checkbox"/> はい
UNIXの場合、Xウィンドウがありますか？ <input type="checkbox"/> はい
UNIXのルートパスワード :

データディクショナリ抽出

複数バージョンのSAPがある場合 (例えば、SAP R/3 4.6C と ECC 6.0 など)、SAP メタデータはシステムバージョン毎に抽出されていなければなりません。それぞれのメタデータ抽出毎に、この表を完成させてください。

ホスト名 :
IPアドレス (通常、SAS/ACCESS Interface to R/3があるマシンのもの) :
データディクショナリをインストールするドライブ/パス :
SAPリリース4.x以上は、500MBのディスク容量が必要です。このディスク容量は利用可能ですか？ <input type="checkbox"/> はい

別のマシン上の SAS ビュー

ホスト名 :
IPアドレス :
オペレーティングシステムのバージョン :
オペレーティングシステムのユーザーIDとパスワード :
Windowsの場合、このユーザーIDには管理者権限がありますか？ <input type="checkbox"/> はい
Windowsスクリーンセーバーのパスワード :
UNIXのルートパスワード :
SAS 9.3のインストールパス (例えば、C:\Program Files\SAS\SAS 9.3もしくは /usr/local/sas) :
SASインストールデータ (SETINIT) にはSAS/ACCESS to R/3が含まれていますか？ (このデータはSASから提供されています) <input type="checkbox"/> はい

セクション C : SAP システム環境

一般的な情報

SAP管理者名（インストール時に補助できる方）： 電話番号： E-mail：
SAPシステム開発者（インストール時に補助できる方）： 電話番号： E-mail：
SAPユーザーID： クライアント： ユーザーID： パスワード：

SAS RFC サーバー

SAS RFC サーバーごとに、この表を完成させてください。

ホスト名：
IPアドレス：
Windows NTのlibrfc32.dllの場所（例えば、c:\sappc\sapgui\rfcsdk\bin）：
UNIXのRFC用スレッドセーフ共有ファイルの場所（使用しているプラットフォームに合う共有ライブラリをSAP Note 413708の手順に基づいてダウンロード）：
TCP/IPポート番号（デフォルトは6999）：
SAPシステムアプリケーションサーバー用のTCP/IPホストファイルエントリ（例えば、1.2.3.4r3server）：
TCP/IPサービスファイルエントリ（例えば、sapdp00 3200/tcp）：

SAP システム

これは、データを取得したい SAP システムに関する情報です。アクセスしたい SAP システム毎に下記の表のいずれか 1 つ作成してください。

SAPシステムアプリケーションサーバーホスト名：
IPアドレス：
SAPシステムリリース（例えば、4.6C）：
システムID（例えば、A01）：
sideinfoファイルが接続パラメータに使用されていますか？ <input type="checkbox"/> はい sideinfoファイルのパスとファイル名：
RFCダイアログユーザーID： クライアント：

ユーザーID :
パスワード :
システム番号 (SYS) (例えば、00) :
言語 (例えば、英語の場合はEN) :
ゲートウェイホスト (異なる場合のみ) :
ゲートウェイサービス (例えば、sapgw00) :
トランザクションプログラム (例えば、sapdp00) :

SAPGUI

SAPGUIがインストールされているホスト名 :
UNIXの場合、Xウィンドウがありますか? <input type="checkbox"/> はい

付録 D : インストールのためのチェックリスト

インストール中に、下記の情報のメモを取ってください。

データディクショナリ抽出の場所（例えば、c:\Program Files\SAS\SAS 9.3） :
移送リクエスト番号（例えば、A01K902092） :

付録 E : ABAP アドオンのインストール

SAP ECC 6.0, SAP Kernel Release 7.0、SAP ECC 6.0 および、SAP BI 7.0 に対して、SAS は SAP システムの ABAP オブジェクトのインストールのためのアドオンを提供します。また、SAS 9.2 アドオンを 9.3 アドオンにアップグレードするためのアップグレードパッケージ、および、SAP ECC 6.0 と SAP BW 7.0 にそれぞれ対応した 2 種類のサポートパッケージを提供しています。

次の表でアドオンのコンテンツを説明します。

SAS930.SAR	SAS/ACCESS Interface to R/3のインストールパッケージ。
SAS930U1.SAR	SAS/ACCESS Interface to R/3のアップグレードパッケージ。9.2アドオンから9.3アドオンにアップグレードします。
SAS930S1.SAR	SAP ECC用のSAS/ACCESS Interface to R/3のサポートパッケージ。
SAS930S2.SAR	SAP BW用のSAS/ACCESS Interface to R/3のサポートパッケージ。

注意： このアドオンはSAP BASIS 7.0、SAP ECC 6.0および、SAP BW 7.0で使用可能です。アドオンのインストールは、「第3章 SAS/ACCESS Interface to R/3のインストール」で説明されている移送ファイルを使ったABAPオブジェクトのインストールに替わる手段です。アドオンをインストールするか、または、SASが提供している移送ファイルを適用するか、いずれか1つを実行してください。両方実行する必要はありません。

SAP アドオンインストールツール（トランザクション SAINT）を使って、SAS/ACCESS Interface to R/3 のオブジェクトを SAP システムにインポートしてください。

1. SAP システムのクライアント 000 に管理者アカウントでログインします。
2. トランザクション SAINT を使って、アドオンインストールツールを呼び出します。
3. メニューから [Installation Package] > [Load Packages] > [From front end] を選択します。システムがアーカイブを選択するダイアログボックスを表示します。SAS930.SAR ファイルのパスまたは、アップグレードパッケージ SAS930U1.SAR ファイルのパスに移動し、それを選択します。
4. アーカイブをアプリケーションサーバーにコピーして解凍するには、[Decompress] を選択してください。SAS/ACCESS to R/3 アドオンが、アドオンインストールツールにインストール可能なアドオンまたは、アップグレードとして表示されるようになります。どちらが表示されるかは、手順 3 での選択によって異なります。
5. アドオンのインストールキューを準備するには、SAS アドオンを選択し、[Continue] を選択します。
 - a. インポートの必要条件が全て合うと、インストールキューが表示されます。
 - b. 全てのインストール必要条件に合わない場合は、その SAP システムにアドオンをインストールすることができません。インポートの必要条件が表示されます。別の方法として、「第3章 SAS/ACCESS Interface to R/3 のインストール」に記述されている、移送ファイルのインストールをすることも可能です。

6. インストールを開始するには、[Continue] ボタンをクリックしてください。

アドオンのインストールまたは、アップグレードの後、SAS930S1.SAR、SAS930S2.SAR サポートパッケージまたは、その他のアドオンをインストールする場合は、次の手順に従ってください。

1. SAP システムのクライアント 000 に管理者アカウントでログインします。
2. トランザクション SPAM を使って、Support Package Manager ツールを呼び出します。
3. メニューから [Support Package] > [Load Packages] > [From front end] を選択します。システムがアーカイブを選択するダイアログボックスを表示します。SAS930S1.SAR ファイルまたは、SAS930S2.SAR ファイルのパスに移動し、それを選択します。
4. アーカイブをアプリケーションサーバーにコピーして解凍するには、[Decompress] を選択してください。続いて、[Display / define] を選択し、[SAS] をクリックします。
5. Support Package を反転表示させ、[Enter] ボタンを押します。
6. インストールを開始するには、[Import Queue] アイコンをクリックしてください。
7. インストールの完了後、メニューアイテム [Support Package | Confirm] を選択します。

用語集

ABAP 開発ユーザー (ABAP Development User)

ABAP 開発ユーザー (ABAP Development User) とは、ABAP 開発者の権限を持った SAP のユーザーID です。SAS/ACCESS Interface to R/3 の一部である、ABAP ファンクショングループ、ファンクションモジュール、レポートの作成時に使用されます。SAP リリース 3.0 以上では、開発ユーザーは OSS アクセスキー (OSS Access Key) も必要になります。開発ユーザーID は、SAS/ACCESS Interface to R/3 のインストール時にのみ必要になります。

権限 (Authorization)

SAP システムには、SAP システムの特定のオブジェクトへのアクセスや特定のアクションの実行を許可もしくは制限するための強力なツールがあります。SAS/ACCESS Interface to R/3 は、テーブルの読み込みの許可と通信の許可が必要です。

クライアント (Client)

商業的、組織的、技術的な用語で、クライアント (Client) とは、個別のマスタレコードとテーブルのセットを持った SAP システムの内蔵型ユニット (例えば、企業グループ、ビジネスユニット、企業など) を指します。

データディクショナリ抽出

SAS/ACCESS Interface to R/3 では、SAP データディクショナリからのメタデータをもとにしたナビゲーションツールが提供されています。そのツールはメタデータのコピー (データディクショナリ抽出) に基づいて動作します。

OSS アクセスキー (OSS Access Key)

OSS アクセスキーとは、ある特定の文字列のことで ABAP 開発者がプログラム、ファンクションモジュール、ファンクショングループなどのような ABAP オブジェクトをはじめて作成・変更する際に入力する必要があります。OSS アクセスキーは、SAP 社のオンラインサービスシステム (OSS) から取得することができます。

SAP システムアプリケーションサーバー

SAP システムの三層構造のクライアント/サーバーキテクチャは、データベース、アプリケーション、プレゼンテーション層の 3 つのコンポーネントで構成されています。SAS/ACCESS Interface to R/3 は、R/3 システムアプリケーションサーバーと通信します。

RFC

リモートファンクションコール (RFC) インターフェイスは、SAP 社のリモートプロシジャコールの実装です。R/2 と R/3 システム、外部プログラムとの統合も提供されています。SAS/ACCESS Interface to R/3 は、R/3 システムと SAS RFC サーバー間の通信とデータ移送に RFC インターフェイスを使用します。

RFC SDK

RFC ソフトウェア開発キット (RFC SDK) は、外部プログラムと SAP システムのファンクションモジュールとの間の通信を実装するためのライブラリとソースファイルを含みます。

RFC 接続先 (RFC Destination)

RFC 接続先は、リモートシステムの場所を SAP に定義するために使用されます。

RFC ユーザー

RFC ユーザーの参照は、SAS/ACCESS Interface to R/3 が SAS RFC サーバーと SAP システムアプリケーションサーバー間の通信のために使用する SAP ユーザーID です。

SAS/ACCESS Interface to R/3、アプリケーション

これは、SAS/ACCESS Interface to R/3 の GUI です。この GUI は、SAP から抽出されたメタデータをナビゲートするために使用されます。SAP システムからのデータ読み込みのための SAS のソースコードを生成します。

SAS RFC サーバー

SAS RFC サーバーは、SAS/ACCESS Interface to R/3 とともに提供されるプログラムです。これは、SAS 9.1.3 と SAP システムの間の通信に使われるコンポーネントです。次のように様々な設定が可能です。SAS RFC サーバーは、SAS 9.1.3 がインストールされているマシンにインストールすることができます。また、SASRFC サーバーは SAP システムアプリケーションサーバーがインストールされているマシンもしくは、ネットワーク上のいずれかのマシン上にインストールすることができます。SAS では、上記のうちはじめの 2 つのオプションを選択することを推奨しています。

SAPGUI

SAPGUI は、SAP システムのフロントエンドです。SAS/ACCESS Interface to R/3 のインストール中、SAPGUI は SAP システムのインターフェイス部分のインストールで必要になります。

sideinfo ファイル

sideinfo ファイルには、接続パラメータが含まれています。環境変数 SIDE_INFO は、sideinfo ファイルのパスを定義します。環境変数 SIDE_INFO が定義されると、sideinfo ファイルは、作業ディレクトリ内に配置する必要があります。SAS/ACCESS Interface to R/3 では、sideinfo ファイルは、SAS RFC サーバーと SAP システムとの通信のためのパラメータの定義に使用することができます。

バリエント (Variant)

バリエント (Variant) は、ABAP プログラムの入力変数のセットを保存するために使われません。



THE
POWER
TO KNOW.

support.sas.com

SAS is the world leader in providing software and services that enable customers to transform data from all areas of their business into intelligence. SAS solutions help organizations make better, more informed decisions and maximize customer, supplier, and organizational relationships. For more than 30 years, SAS has been giving customers around the world The Power to Know®. Visit us at www.sas.com.

英語版更新日 March 7 2013

SAS 9.3 (TS1M0), Rev. 930_11w29

Pub Code: 64225

SAS/ACCESS 4.4 Interface to R/3 設定ガイド

2013年3月15日 第1版第2刷発行 (93B23)

発行元 SAS Institute Japan株式会社

〒106-6111 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー11階

本書の内容に関する技術的なお問い合わせは下記までお願い致します。

SASテクニカルサポート

TEL: 03(6434)3680 FAX: 03(6434)3681